



要望書

「はりまの成長なくして日本の成長なし」
播磨臨海地域道路の早期実現を！

播磨臨海地域道路国会議員連盟 第2回総会

平成28年11月24日

・播磨臨海地域道路の早期実現に向けて「ガンバロウ三唱」



播磨臨海地域道路セミナー

平成29年2月13日

・地域の強みを最大限に引き出す方策について、産・官・学が一体となって考えました。



神戸大学大学院 小池淳司教授



産・官・学によるパネルディスカッション



日交通量10万台！
 渋滞が慢性化する加古川バイパス



播磨臨海地域の高度ものづくり拠点



姫路と小豆島を結ぶ定期航路
 国際拠点港湾 姫路港



日本城郭の年間最多入城者286万人
 世界文化遺産・国宝 姫路城

兵庫県

播磨臨海地域道路網協議会
 播磨臨海地域道路網建設促進協議会
 播磨臨海地域道路網促進期成議員連盟

播磨臨海地域道路の早期実現を！

播磨臨海地域は、日本を代表する多様な企業の製造拠点が集積し、多くのトップシェア製品を生み出している日本有数のものづくり拠点である。平成26年の製造品出荷額は5兆9千億円を超え、さらに、ここ7年間の企業の設備投資は約2兆円にもなり、他の大都市をはるかに凌ぐ規模である。

東西交通の要である国道2号バイパスは、昭和35年から、順次整備、供用が開始され、現在では事業着手当時と比較して、地域の製造品出荷額が2.4倍、人口が1.8倍に増加するなど、道路整備が絶大な「ストック効果」を発揮してきた。

一方で、地域の交通量は9倍に増加し、中でも、国道2号バイパスの交通量は10万台から12万台と交通容量の約2倍となっている。このため、慢性的な渋滞が発生し、物流機能の低下を招いている。

こうした課題を解消する播磨臨海地域道路は、「ひと」・「もの」の流れを抜本的に改善し、「生産性革命」を実現する道路である。さらなる民間投資の喚起による安定した雇用の創出など、その実現はストック効果を最大限に発揮させ、将来にわたり当地域の自立・持続的発展に大きく寄与するものと考えている。

「はりまの成長なくして日本の成長なし」、日本の新たな「創造と成長」は、ここ播磨から始まるといっても過言ではなく、播磨の地域創生こそが日本の経済成長を力強く牽引するものと確信している。そのためにも本道路の早期実現が不可欠であり、次の事項について強く要望する。

＜要望＞

- 一 早期の「計画段階評価完了」と「都市計画の決定」
(第1回近畿地方小委員会の早期開催)
- 一 早期完成に向けた国と県の役割分担による整備
(播但連絡道路から東側を国、西側を県で整備)
- 一 播但連絡道路接続部への有料道路事業の導入検討
- 一 道路関係予算の総額確保

平成29年3月9日

兵庫県知事

井戸敏三

播磨臨海地域道路網協議会

会長 姫路市長

石見利勝

副会長 加古川市長

岡田康裕

監事 高砂市長

登幸人

監事 太子町長

服部千秋

理事 明石市長

泉房穂

理事 稲美町長

古谷博

理事 播磨町長

清水ひろ子

参与 たつの市長

栗原一

神戸市長

久元喜造

播磨臨海地域道路網建設促進協議会

会長 姫路商工会議所会頭

齋木俊治郎

副会長 明石商工会議所会頭

平岡勝功

委員 加古川商工会議所会頭

釜谷和明

委員 高砂商工会議所会頭

森本幸吉

委員 稲美町商工会会長

廣田政文

委員 播磨町商工会会長

森田孝

委員 太子町商工会会長

高井國昭

播磨臨海地域道路網促進期成議員連盟

会長 兵庫県議会議員

釜谷研造

副会長 山本敏信 北条やすつぐ 竹内英明

事務局長 松本隆弘

理事 水田裕一郎 掘井健智

会員 原吉三 石井秀武 上野英一 藤本百男

岸本かずなお 北浜みどり 伊藤勝正

迎山志保 谷口俊介 山口晋平 天野文夫

吉岡たけし 樽谷彰人 岡つよし

戸井田ゆうすけ 五島壮一郎 住吉寛紀